

あいさつ

“ささえあう みんなのまち”をめざして



二宮町社会福祉協議会は「地域福祉活動計画」（3か年計画、平成25年度～平成27年度）を策定することができました。

町には総合計画という長期計画があり、その中で「町の将来像」が描かれ、その実現を目指すために行うべき施策の方針が示されます。社協の「地域福祉活動計画」は、この町の総合計画に相当するものです。

ご存知のように、現在日本は、超高齢化社会を迎えています。二宮町は平成22年に65歳以上の高齢者が8,000人を超え、高齢化率は26.8%でしたが、戦後のベビーブームに生まれた世代が65歳を迎えて、わずか4年後の平成26年には高齢者人口は9,000人を超え、高齢化率が31.7%と大きく膨らみ、今後この傾向が続くものと考えられます。このような私たちを取り巻く環境の急激な変化の中であって、社協の役割や方針を示し、中長期的な視点に立った事業や活動を示す「活動計画」を持つことは、必然の成り行きといえます。

また、社協の活動計画は社協単独で行うものではなく、前述の町の長期計画や「高齢者福祉計画」と関連し、協力しながら進めていくものです。その意味からも、町の変化する環境の中で、町が抱える課題を共有し、社協の役割を明確にして、活動を展開するという性格を持っています。合わせて超高齢化社会での「地域」での新しい福祉ネットワーク化という、緊急の課題に取り組む施策を、町民のみなさまに示し、協力を求めることとなります。

今回の「地域福祉活動計画」の策定には、もう一つの特色があります。現状分析から、検討資料の作成・素案づくり、さらに町内11地区の説明会をまわって、町民のみなさまとの意見交換まで、企画運営理事会とボランティアスタッフが中心になって取り組みまとめたものです。いわば“手づくり”の活動計画です。それだけに、身近な感覚をダイレクトに掲げた社協らしい熱意が感じられる活動計画となっています。

これからは、この「地域福祉活動計画」を基本に、社協の活動が行われることとなります。この計画によって、社協の活動が「町民から見えない」との批判に少しでも応えられるものとなり、また多くの町民の理解のもとで社協活動を行えるものと考えています。

平成24年11月

社会福祉法人 二宮町社会福祉協議会会長 岡本 康則